

# 2023年度 業績の概要

2024年5月22日

日本生命保険相互会社  
Nippon Life Insurance Company

# 目次

**1**

グループ概況

**2**

国内生命保険事業

**3**

中期経営計画

**4**

業績見通し

【参考】 グループ各社の概況

## ① 決算のポイント

グループ

## 保険料等収入



8兆5,983億円

(保険料：7兆3,422億円、再保険収入：1兆2,560億円)

前年度比 +34.9%

- 日本生命およびニッセイ・ウェルス生命の一時払商品の販売増を主因に増収

## 基礎利益



7,640億円

前年度比 +61.5%

- 新型コロナウイルス感染症関連の支払減少等による保険関係損益の増加を主因に増益

## 新契約年換算保険料



5,222億円

前年度比 +29.1%

- 日本生命およびニッセイ・ウェルス生命の一時払商品の販売増を主因に増加

## 保有年換算保険料



4兆7,563億円

前年度末比 +3.5%

- ニッセイ・ウェルス生命の増加を主因に前年度末比で増加

## 2024年度業績見通し

減収・減益

- 保険・サービス収益\*は、日本生命およびニッセイ・ウェルス生命の一時払商品の販売減を主因に減収
- 基礎利益は、事業費の増加を主因に減益

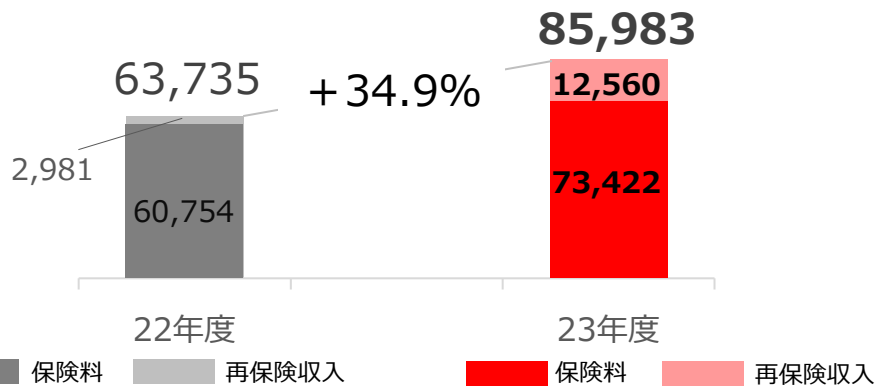
\*保険料等収入にその他経常収益を足し合わせた当社独自指標

個人保険・個人年金保険  
国内生命保険

グループ

## ② 保険料等収入・基礎利益

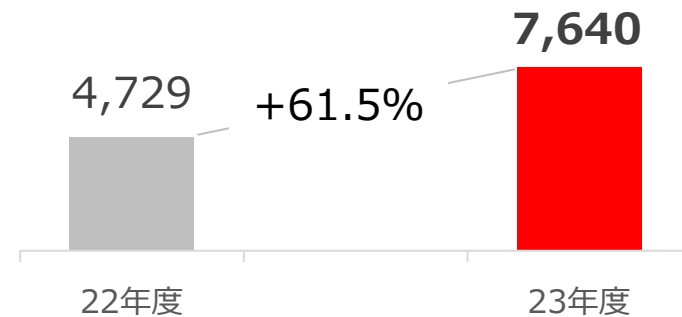
## 保険料等収入 (単位：億円)



|             | 2023年度 | 前年度比     |
|-------------|--------|----------|
| 保険料等収入      | 85,983 | + 34.9%  |
| 保険料         | 73,422 | + 20.9%  |
| 再保険収入       | 12,560 | + 321.4% |
| 日本生命        | 52,973 | + 14.0%  |
| 大樹生命        | 9,288  | + 5.0%   |
| ニッセイ・ウェルス生命 | 20,636 | + 261.7% |
| はなさく生命      | 409    | + 84.2%  |
| MLC         | 2,210  | + 6.1%   |

※ 合計値は連結保険料等収入（日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命、ニッセイプラス少額短期保険、MLC Limited（以下、MLC）、米国日生を対象に算出）

## 基礎利益 (単位：億円)



|             | 2023年度 | 前年度比       |
|-------------|--------|------------|
| 基礎利益        | 7,640  | + 61.5%    |
| 利差益         | 2,846  | + 15.8%    |
| 保険関係損益      | 4,588  | + 112.1%   |
| 日本生命        | 7,087  | + 42.1%    |
| 大樹生命        | 145    | ▲ 16.0%    |
| ニッセイ・ウェルス生命 | 374    | (+668億円) * |
| はなさく生命      | ▲ 172  | + 30.0%    |
| MLC         | ▲ 0    | (▲ 3億円) *  |

※ 合計値は日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の基礎利益、海外生命保険子会社・関連会社および国内外のアセットマネジメント事業子会社・関連会社の税引前純利益に、持分比率、金利変動要因の除外、一部の内部取引の調整等を行い算出

※ 利差益および保険関係損益は国内生命保険の合計

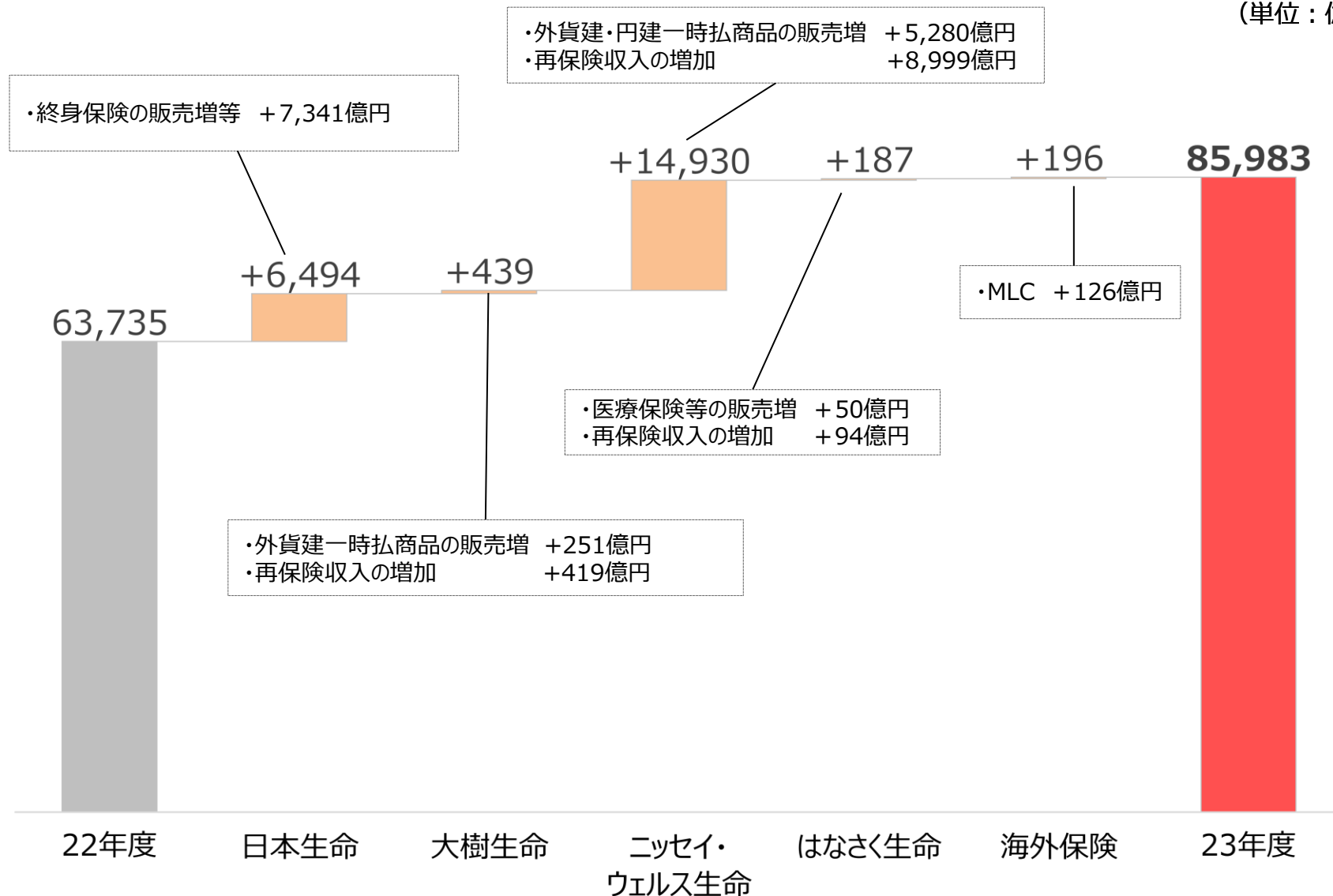
※ 子会社の数値は、対象年度当時の持分比率に基づいて算出

※ MLCの数値は、当年度・前年度ともに新会計基準適用数値

\* 当年度と比較対象年度の数値が異符号のため、増減率算出不可。括弧内数値は前年同期比の増減額を記載

## ③ 保険料等収入

(単位：億円)



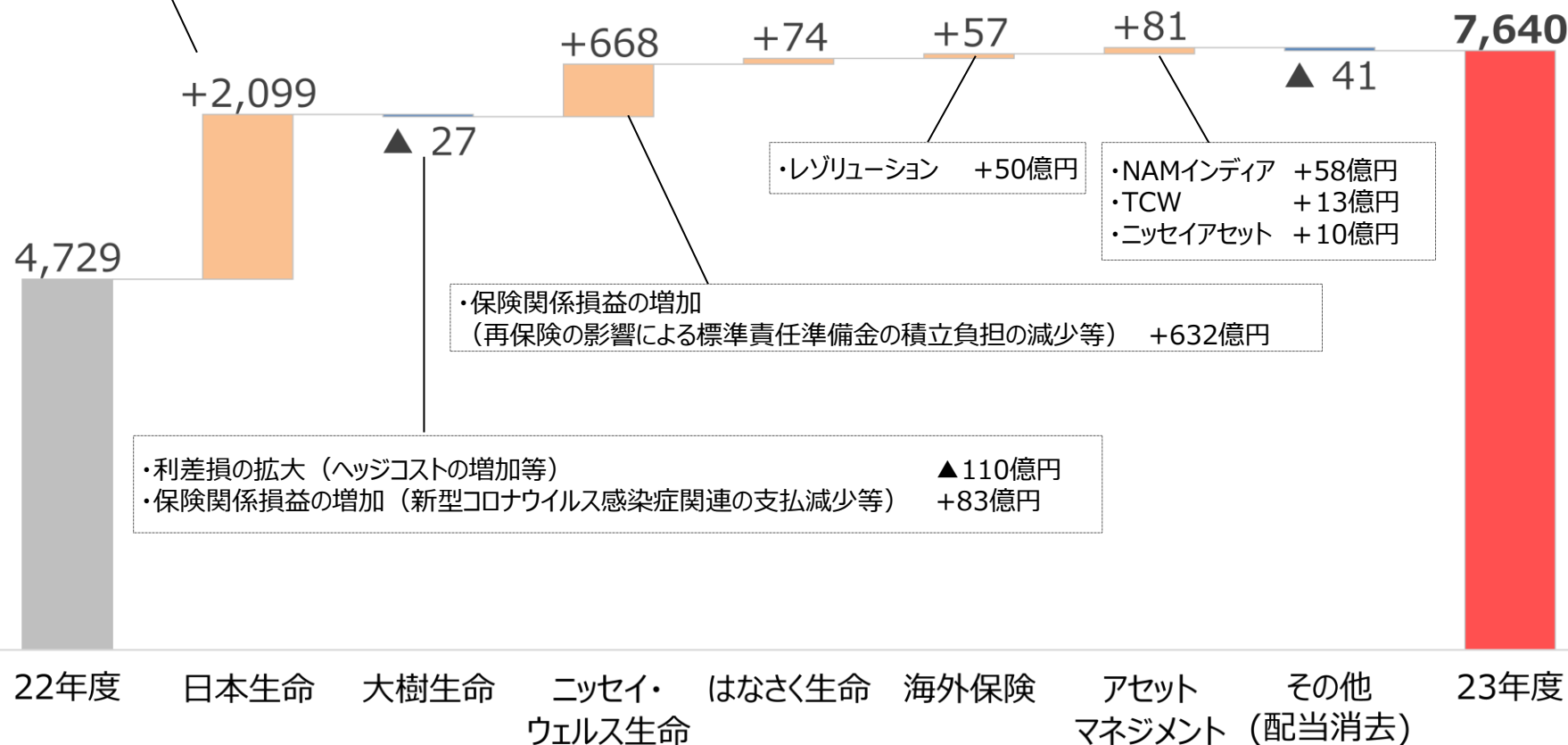
※ 合計値は連結保険料等収入（日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命、ニッセイプラス少額短期保険、MLC、米国日生を対象に算出）

## ④ 基礎利益

- ・保険関係損益の増加（新型コロナウイルス感染症関連の支払減少等） +1,635億円
- ・利差益の増加（利息及び配当金等収入の増加等） +463億円

(単位：億円)

- ・保険関係損益の増加（再保険活用に伴う新契約費の負担減少等） +73億円



※ 合計値は日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の基礎利益、海外生命保険子会社・関連会社および国内外のアセットマネジメント事業子会社・関連会社の税引前純利益に、持分比率、金利変動要因の除外、一部の内部取引調整等を行い算出

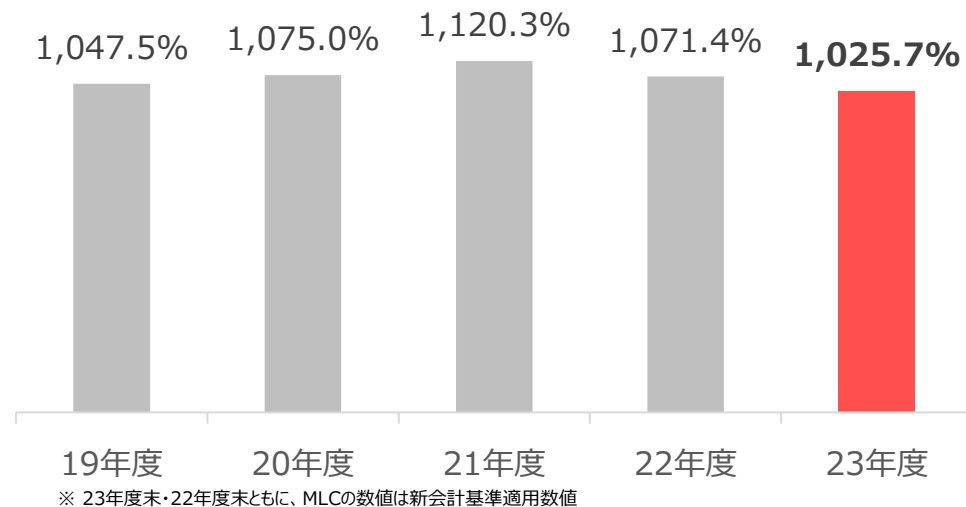
※ 【会社名称】 ニッセイアセット：ニッセイアセットマネジメント、NAMインディア：ニッポンライフ・インディア・アセットマネジメント、レゾリューション：レゾリューションライフ

※ MLCの数値は、当年度・前年度ともに新会計基準適用数値

## ⑤ 健全性

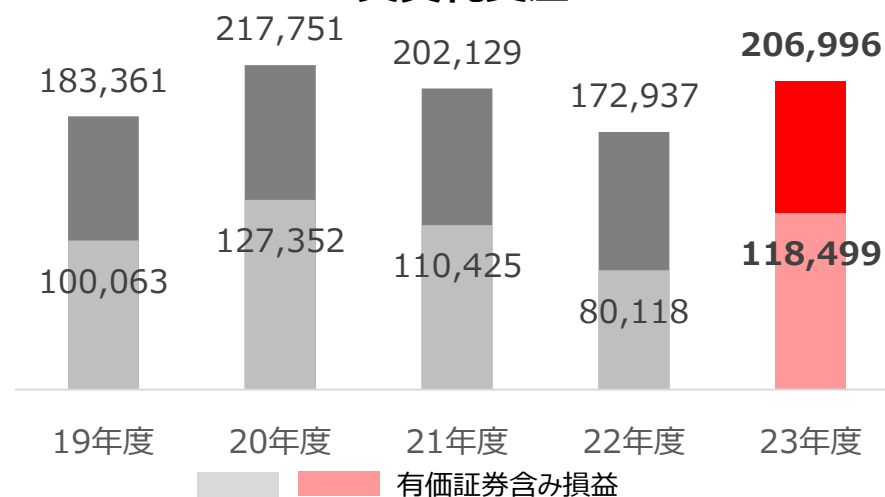
- ソルベンシー・マージン比率は、株価上昇による有価証券含み益の増加によりマージンは増加も、資産運用リスクの増加の影響が大きく、前年度末比で低下。
- 実質純資産は、株価上昇による有価証券含み益の増加により、前年度末比で増加。

## ソルベンシー・マージン比率



## 実質純資産

(単位：億円)



※ 有価証券含み損益は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命、海外生命保険子会社、その他連結対象子会社を対象に算出  
 ※ 23年度末・22年度末ともに、MLCの数値は新会計基準適用数値

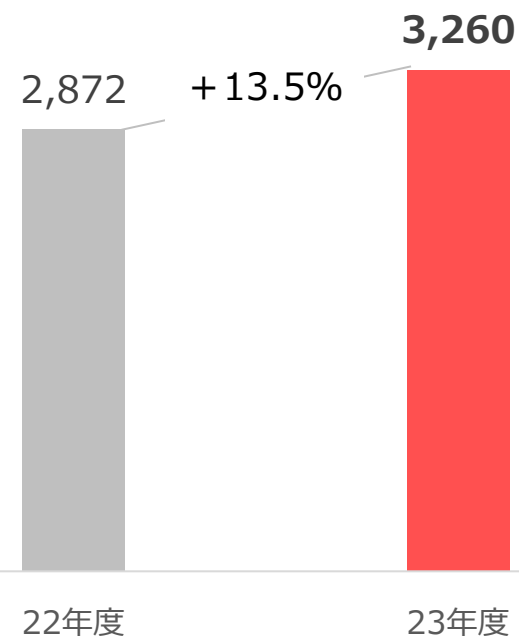
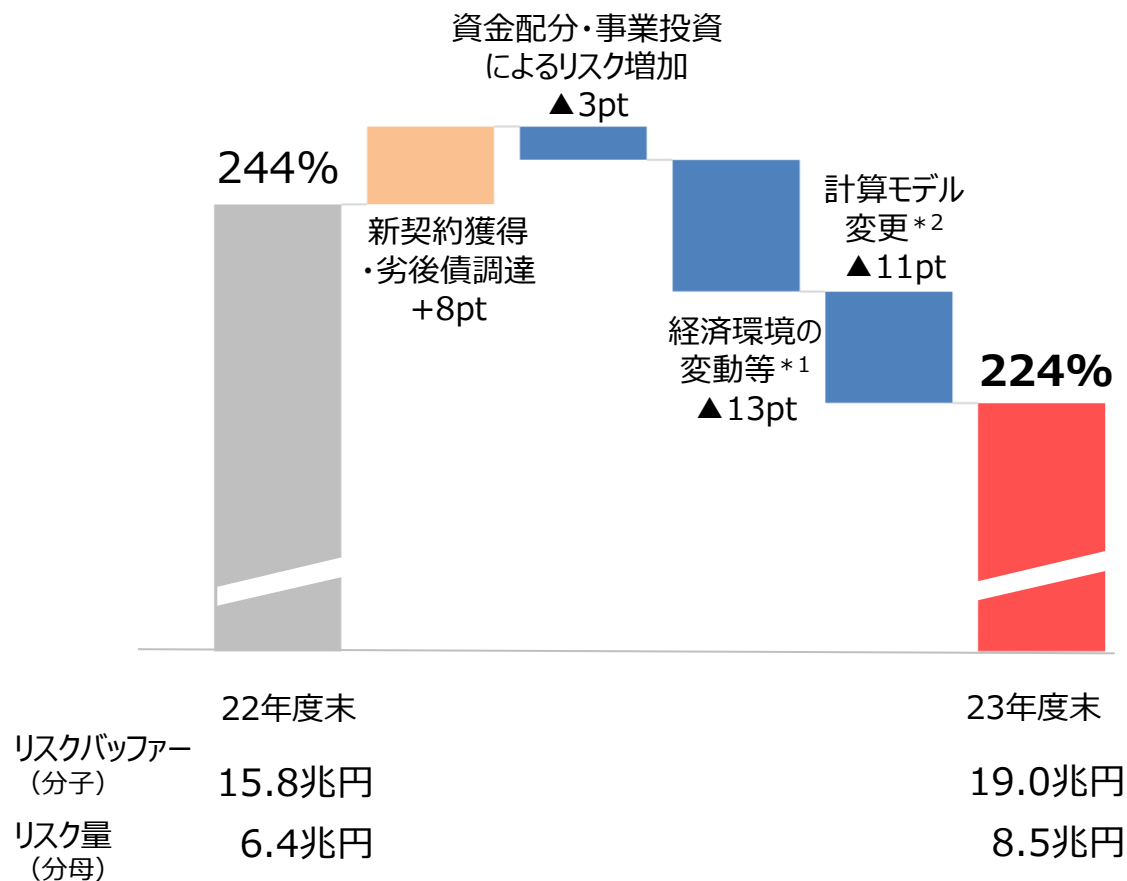
## ⑥ ESR・新契約価値

- 経済価値ベースのソルベンシー比率（ESR）は、新契約獲得や劣後債調達等により改善する一方、経済環境の変動や計算モデル変更等の影響により、前年度末比で低下。
- 新契約価値は、金利上昇等の影響により、前年度比で増加。

## 経済価値ベースのソルベンシー比率（ESR）

## 新契約価値

（単位：億円）



\*1 事業費予測に用いるインフレ率の上昇等

\*2 終局金利の変更等

※ 新契約価値は、計算モデル変更後ベース

## ⑦ 損益計算書・貸借対照表

## 損益計算書

- 経常利益は、前年度比で増加。
- 当期純剰余は、前年度比で増加。

(単位：億円)

|           | 2023年度  | 前年度比     |
|-----------|---------|----------|
| 経常収益      | 120,088 | + 24.8%  |
| 保険料等収入    | 85,983  | + 34.9%  |
| 資産運用収益    | 31,199  | + 4.7%   |
| 経常費用      | 114,274 | + 20.9%  |
| 保険金等支払金   | 66,231  | + 19.6%  |
| 資産運用費用    | 9,440   | ▲ 31.5%  |
| 事業費       | 7,899   | + 3.9%   |
| 経常利益      | 5,813   | + 239.8% |
| 特別損益      | ▲ 644   | ▲ 239.4% |
| 当期純剰余（利益） | 4,124   | + 190.2% |

## 貸借対照表

- 総資産・負債は、前年度末比で増加。
- 純資産は、前年度末比で増加。

(単位：億円)

|           | 2024年<br>3月末 | 前年度末比   |
|-----------|--------------|---------|
| 総資産       | 975,961      | + 11.4% |
| うち有価証券    | 816,285      | + 12.9% |
| うち貸付金     | 89,119       | + 3.2%  |
| うち有形固定資産  | 18,966       | + 2.1%  |
| 負債        | 870,496      | + 7.9%  |
| うち保険契約準備金 | 742,540      | + 3.8%  |
| うち責任準備金   | 728,491      | + 4.5%  |
| うち価格変動準備金 | 17,328       | + 2.9%  |
| 純資産       | 105,465      | + 52.2% |

## ① 保険料等収入

- 営業職員チャネルおよび金融機関窓販チャネルの増加を主因に増収。

### 保険料等収入（国内計）（単位：億円）

83,308

61,257

+ 36.0%

22年度

23年度

|               | 2023年度 | 前年度比    |
|---------------|--------|---------|
| 保険料等収入（国内計）   | 83,308 | + 36.0% |
| うち個人保険・個人年金保険 | 57,849 | + 29.3% |
| 営業職員チャネル      | 35,758 | + 21.0% |
| 代理店チャネル       | 6,452  | + 13.7% |
| 金融機関窓販チャネル    | 15,637 | + 64.7% |
| うち団体保険        | 2,877  | + 1.9%  |
| うち団体年金保険      | 10,004 | ▲ 5.7%  |

※ 日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命、ニッセイプラス少額短期保険の合計値

※ 当年度から、「銀行窓販チャネル」を「金融機関窓販チャネル」に変更

## ② 新契約

- 個人保険・個人年金保険における新契約の年換算保険料・保障額等は増加、件数は減少。

## 個人保険・個人年金保険

(単位：億円、万件)

|             | 年換算保険料* |        | 件数     |        | 保障額等   |        |
|-------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
|             | 2023年度  | 前年度比   | 2023年度 | 前年度比   | 2023年度 | 前年度比   |
| 国内計         | 5,222   | +29.1% | 395    | ▲12.2% | 85,331 | +4.1%  |
| 営業職員チャネル    | 2,015   | +13.7% | 345    | ▲15.9% | 46,340 | ▲8.9%  |
| 代理店チャネル     | 799     | +6.9%  | 28     | +11.5% | 21,225 | +7.0%  |
| 金融機関窓販チャネル  | 2,394   | +57.8% | 19     | +39.4% | 17,338 | +56.9% |
| 日本生命        | 2,588   | +9.9%  | 347    | ▲15.7% | 51,601 | ▲9.7%  |
| 大樹生命        | 399     | +12.4% | 15     | +4.8%  | 8,384  | +7.1%  |
| ニッセイ・ウェルス生命 | 2,114   | +72.3% | 12     | +72.9% | 14,022 | +86.5% |
| はなさく生命      | 120     | +13.0% | 20     | +20.1% | 11,324 | +19.4% |

\* 海外含みの新契約年換算保険料は約5,300億円（概算）

### ③ 保有契約

- 個人保険・個人年金保険の保有契約は、年換算保険料は増加、件数は横ばい、保障額等は減少。
- 団体保険は減少、団体年金保険は増加。

#### 個人保険・個人年金保険

(単位：億円、万件)

|             | 年換算保険料 <sup>*</sup> |         | 件数           |         | 保障額等         |         |
|-------------|---------------------|---------|--------------|---------|--------------|---------|
|             | 2024年<br>3月末        | 前年度末比   | 2024年<br>3月末 | 前年度末比   | 2024年<br>3月末 | 前年度末比   |
| 国内計         | 47,563              | + 3.5%  | 3,843        | + 0.2%  | 1,684,736    | ▲ 1.7%  |
| 日本生命        | 37,401              | ▲ 0.0%  | 3,482        | ▲ 0.5%  | 1,442,484    | ▲ 3.3%  |
| 大樹生命        | 5,173               | + 2.1%  | 251          | ▲ 1.2%  | 161,178      | ▲ 2.6%  |
| ニッセイ・ウェルス生命 | 4,649               | + 44.5% | 52           | + 26.8% | 54,450       | + 37.6% |
| はなさく生命      | 337                 | + 38.5% | 56           | + 42.4% | 26,622       | + 57.0% |

\* 海外含みの保有年換算保険料は約4.98兆円（概算）

#### 団体保険・団体年金保険

団体保険  
(保障額等)

団体年金保険  
(受託資産等)

|      | 団体保険<br>(保障額等) |        | 団体年金保険<br>(受託資産等) |        |
|------|----------------|--------|-------------------|--------|
|      | 2024年<br>3月末   | 前年度末比  | 2024年<br>3月末      | 前年度末比  |
| 国内計  | 1,078,559      | ▲ 0.7% | 199,166           | + 6.9% |
| 日本生命 | 968,744        | ▲ 0.6% | 139,948           | ▲ 0.7% |
| 大樹生命 | 109,815        | ▲ 0.7% | 5,976             | ▲ 9.7% |

※ 団体保険・団体年金保険の国内計は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命の合計値

団体年金保険の国内計には、ニッセイアセットマネジメントの投資顧問残高（42,319億円）、確定拠出年金の投資信託（日本生命販売分10,909億円）を含む

## ④ ご契約者配当（日本生命単体）

- 個別保険について、  
危険差益配当は増配、  
利差益配当は据置の方針。
- 団体保険は据置、  
団体年金は概ね増配の方針。
- 配当総額は2,645億円、  
お客様配当性向は51%となる  
見込み。

### 個別保険

- 危険差益配当は約100億円の**増配**、  
利差益配当は**据置**
  - 対象 : 約1,000万件
  - 金額 : 約800億円

### 団体保険・団体年金

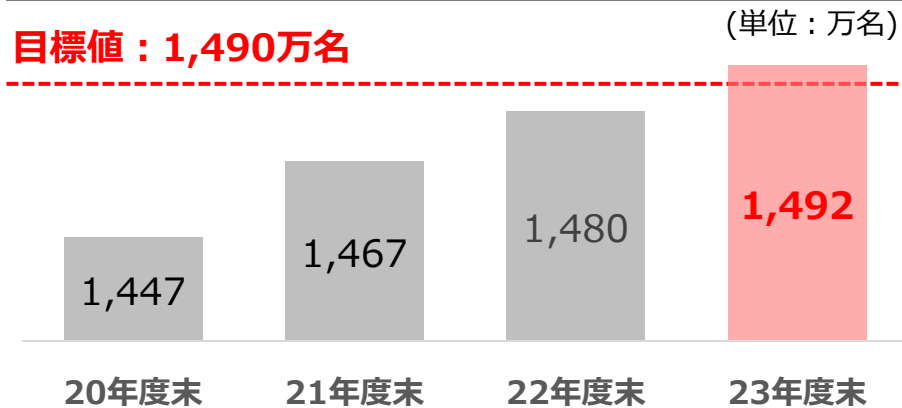
- 団体保険は**据置**
    - 対象 : 約6,800団体
    - 金額 : 約1,200億円
  - 団体年金は概ね**増配**
    - 対象 : 約4,800団体
    - 金額 : 約600億円
- （参考）新GA\*の配当込み利回り：1.35%（対前年+0.15pt）

配当総額：2,645億円（対前年+826億円）  
お客様配当性向：**51%**

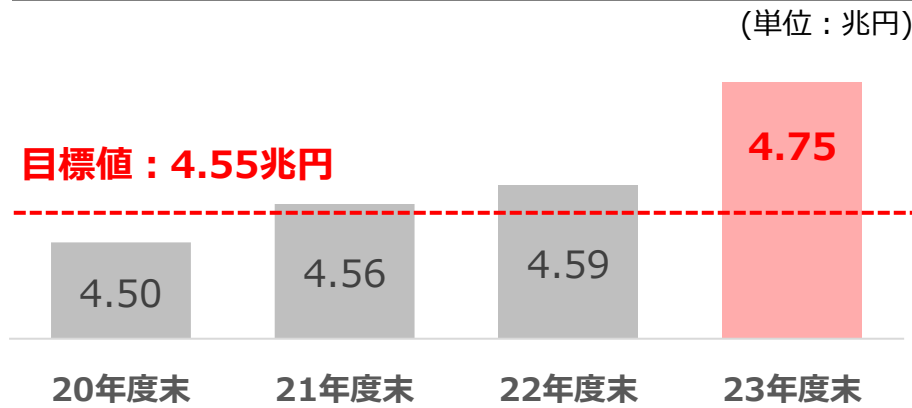
# ① 中期経営計画（2021-2023）における数量目標の達成状況

- お客様数・保有年換算保険料・基礎利益は、目標達成。
- 自己資本は、新型コロナウイルス感染症関連の支払増加の影響により、目標は未達となった一方、リスク削減の取り組み等を通じて、健全性は着実に向上。

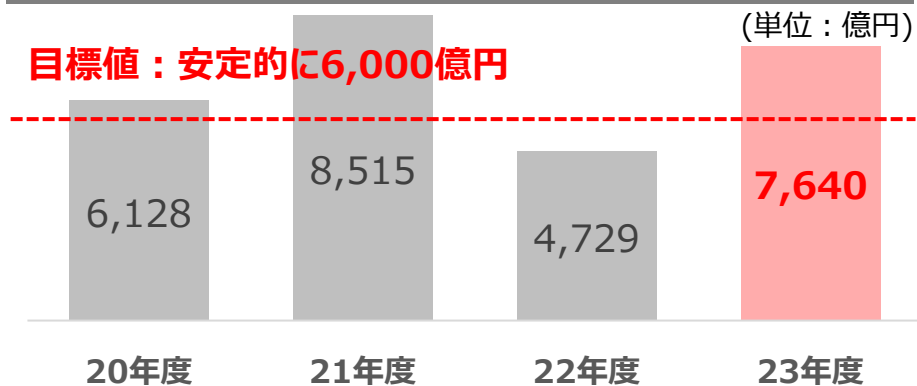
## お客様数（国内グループ）



## 保有年換算保険料（国内グループ）



## 基礎利益（グループ）



## 自己資本（グループ）



※ 2022年度より適用された基礎利益の計算方法に基づいて算出  
 ※ 23年度・22年度ともに、MLCの数値は新会計基準適用数値

※ 23年度末・22年度末ともに、MLCの数値は新会計基準適用数値

## ② 新中期経営計画（2024-2026）

新たな中期経営計画では、各事業を通じた「社会に提供する価値の拡大」により、  
「当社グループの成長」と「世界トップレベルの健全性水準」・「契約者配当の充実」を実現

目指す社会

誰もが、ずっと、安心して暮らせる社会

人・地域社会・地球環境の3領域でサステナビリティ経営を高度化

目指す企業像

生命保険を中心にアセットマネジメント・ヘルスケア・介護・保育等の  
様々な安心を提供する“安心の多面体”としての企業グループ

### 中期経営計画（2024-2026）

位置づけ

中長期的な成長角度の引き上げに向け、販売業績・新たな収益軸の  
拡大を加速し、グループ経営を強力に推進する3年間

テーマ

“期待を超える安心を、より多くのお客様へ。”

5つの戦略軸

- ①国内保険事業のバリューアップ
- ②国内における安心の更なる多面化
- ③海外事業の拡大
- ④財務戦略のステージアップ  
（資産運用、資本・契約者配当）
- ⑤強固な経営基盤構築

お客様本位の業務運営

#### 社会に提供する価値の拡大

- 商品・サービスの拡充
- コンサルティング力強化
- CX向上
- 企業の経営課題支援
- 地域社会・地球環境等の社会課題解決への貢献

お客様1,560万名・顧客企業数35万社への拡大

お客様満足度  
90%以上の確保

預かり資産  
112兆円への拡大

#### 当社グループの成長

新契約価値3,500億円

保有年換算保険料4.85兆円

基礎利益8,600億円

#### 健全性・契約者配当

世界トップレベルの健全性水準の確保

契約者配当の充実

## ① 2024年度業績見通し

- 保険・サービス収益\*は、日本生命およびニッセイ・ウェルス生命の一時払商品の販売減を主因に減収。

\*保険料等収入にその他経常収益を足し合わせた当社独自指標

- 基礎利益は、事業費の増加を主因に減益。
- 保有年換算保険料は横ばい、新契約価値は減少。

(単位：億円、百万豪ドル)

### 保険・サービス収益 (保険料等収入 + その他経常収益)

### 基礎利益

### 保有年換算保険料 (国内グループ計)

2023年度  
実績

2024年度  
見通し

2023年度  
実績

2024年度  
見通し

2023年度  
実績

2024年度  
見通し

|             |          |           |       |        |                  |               |
|-------------|----------|-----------|-------|--------|------------------|---------------|
| グループ計       | 88,888   | 約77,600   | 7,640 | 約7,300 | 47,563           | 約47,600       |
| (保険料等収入)    | (85,983) | (約74,700) |       |        |                  |               |
| 日本生命        | 54,114   | 減少        | 7,087 | 減少     | 新契約価値<br>(グループ計) |               |
| 大樹生命        | 9,420    | 減少        | 145   | 増加     |                  |               |
| ニッセイ・ウェルス生命 | 20,672   | 減少        | 374   | 増加     | 2023年度<br>実績     | 2024年度<br>見通し |
| はなさく生命      | 409      | 増加        | ▲ 172 | 増加     | 3,260            | 約3,200        |
| MLC         | 1,858    | 増加        | ▲ 0   | 増加     |                  |               |

※保険・サービス収益のグループ計は、連結損益計算書における保険料等収入およびその他経常収益の合計（各社については単体の数値を記載）

※基礎利益のグループ計は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の基礎利益、海外生命保険子会社・関連会社および国内外のアセットマネジメント事業子会社・関連会社の税引前純利益に、持分比率、金利変動要因の除外、一部の内部取引調整等を行い算出

※MLCの保険・サービス収益は収入保険料。基礎利益は税引前利益に持分比率、金利変動要因等の除外を行い算出（現地通貨ベース）

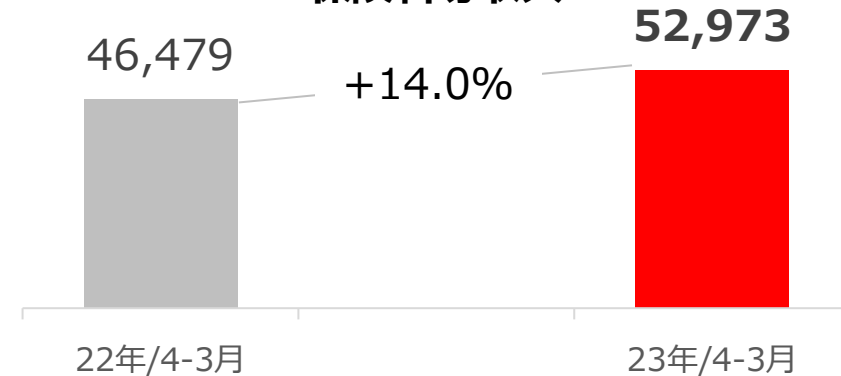
**【参考】**  
**グループ各社の概況**

## 日本生命（単体）：収支

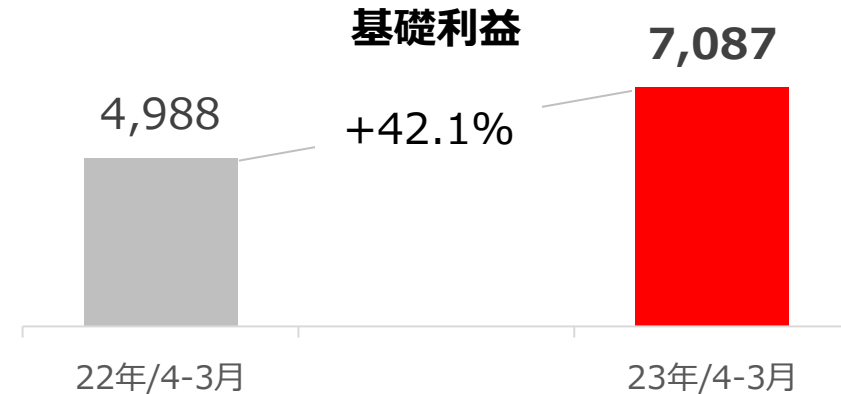
- 日本生命単体は、前年度比で増収・増益。
- 保険料等収入は、営業職員チャネルの円建終身保険の販売増を主因に増収。
- 基礎利益は、新型コロナウイルス感染症関連の支払減少等による保険関係損益の増加を主因に増益。

### 保険料等収入

（単位：億円）



### 基礎利益



|         | 2023年度 | 前年度比   |
|---------|--------|--------|
| 基礎利益    | 7,087  | +42.1% |
| 利差益     | 2,808  | +19.8% |
| 保険関係損益* | 4,279  | +61.9% |

\*費差益は545億円、危険差益は3,733億円

## 日本生命（単体）：資産運用

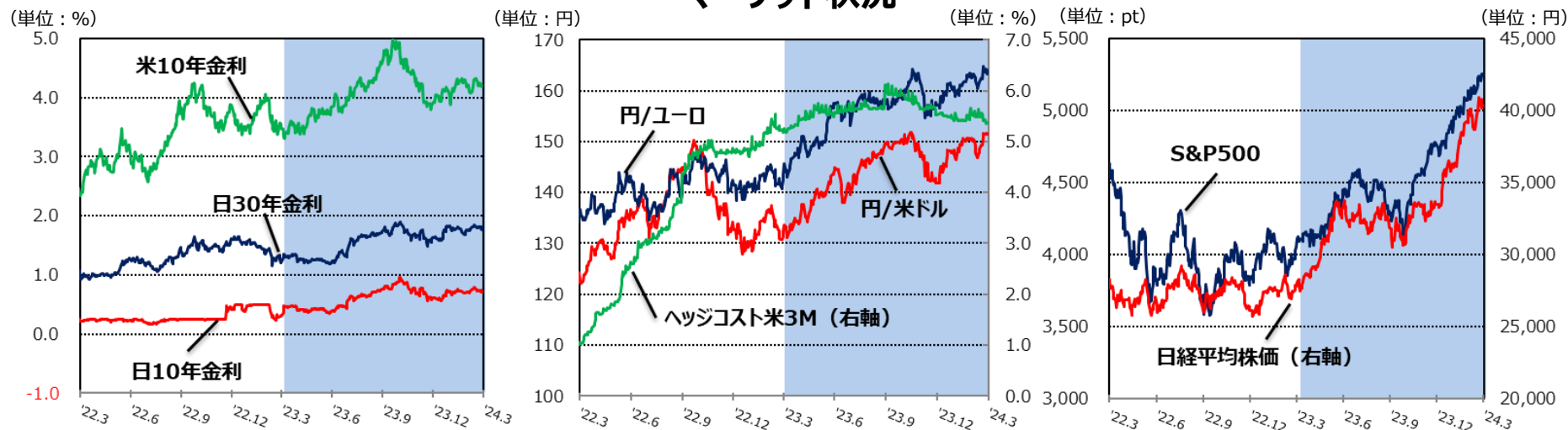
- 資産運用収支は、前年度比で減少。
- 資産運用収益は、有価証券売却益の減少を主因に減少。
- 資産運用費用は、金融派生商品費用が増加となった一方、有価証券売却損の減少を主因に減少。

### 資産運用収支（一般勘定）（単位：億円）

|              | 2023年度 | 前年度比   |
|--------------|--------|--------|
| 資産運用収益       | 20,889 | ▲4,988 |
| うち利息及び配当金等収入 | 16,076 | +831   |
| うち有価証券売却益    | 3,153  | ▲6,940 |
| うち為替差益       | 1,582  | +1,056 |
| 資産運用費用       | 6,969  | ▲4,814 |
| うち有価証券売却損    | 2,758  | ▲5,985 |
| うち有価証券評価損    | 65     | +3     |
| うち金融派生商品費用   | 2,883  | +1,123 |
| 資産運用収支       | 13,919 | ▲173   |

※ 当年度から一部の会計処理を大樹生命との統一を目的に変更しており、前年度比については遡及修正後の数値を記載

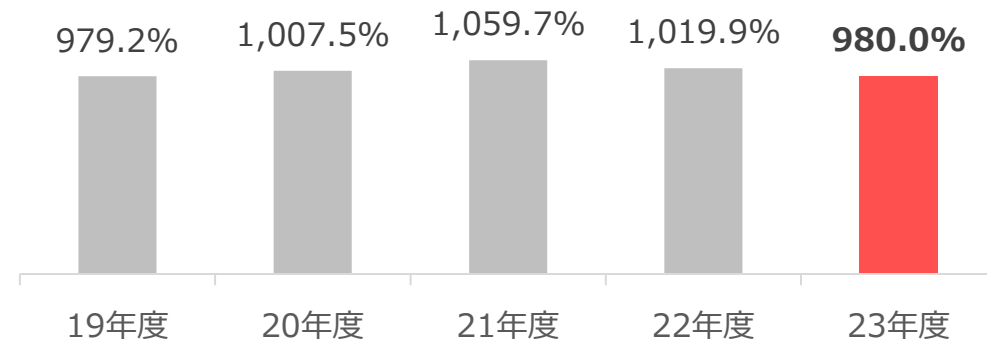
### マーケット状況



## 日本生命（単体）：健全性

- ソルベンシー・マージン比率は、株価上昇による有価証券含み益の増加によりマージンは増加も、資産運用リスクの増加の影響が大きく、前年度末比で低下。
- 有価証券の含み益は、国内株価の上昇を主因に、前年度末比で増加。

### ソルベンシー・マージン比率



### 自己資本

（単位：億円）



### 有価証券 含み損益

（単位：億円）

|      | 2024年<br>3月末 | 前年度末比    |
|------|--------------|----------|
| 有価証券 | 120,027      | + 39,273 |
| 公社債  | ▲ 10,116     | ▲ 17,628 |
| 国内株式 | 95,778       | + 39,623 |
| 外国証券 | 33,482       | + 16,229 |
| その他  | 882          | + 1,050  |

※ 市場価格のない株式等および組合等は除いて算出

# 日本生命（単体）：継続率・代理店数・営業職員数

|            | 2024年<br>3月末 | 前年度末比   | (ご参考)<br>前年度末 |
|------------|--------------|---------|---------------|
| 新規6月目継続率   | 97.5%        | ▲ 0.4pt | 97.9%         |
| 合計13総合継続率  | 95.6%        | ▲ 0.3pt | 95.9%         |
| 代理店（単位：店）  | 19,162       | + 129   | 19,033        |
| うち金融機関     | 298          | + 1     | 297           |
| 営業職員（単位：名） | 47,937       | ▲ 2,344 | 50,281        |

※ 新規6月目継続率とは、新規契約かつ月払の6月目継続率

※ 合計13総合継続率とは、新規および転換契約の合計で、月払・年払・一時払のすべての保険料の支払方法を含んだ13月目継続率

※ 2024年3月末の「新規6月目継続率」の対象は、2022年9月から2023年8月までの新規契約

※ 前年度末の「新規6月目継続率」の対象は、2021年9月から2022年8月までの新規契約

※ 2024年3月末の「合計13総合継続率」の対象は、2022年1月から12月までの新規および転換契約

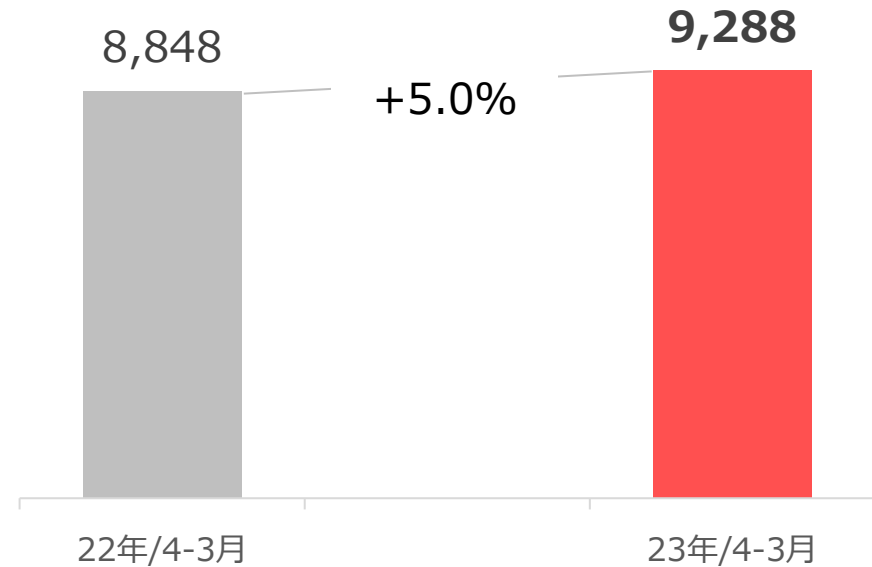
※ 前年度末の「合計13総合継続率」の対象は、2021年1月から12月までの新規および転換契約

# 大樹生命

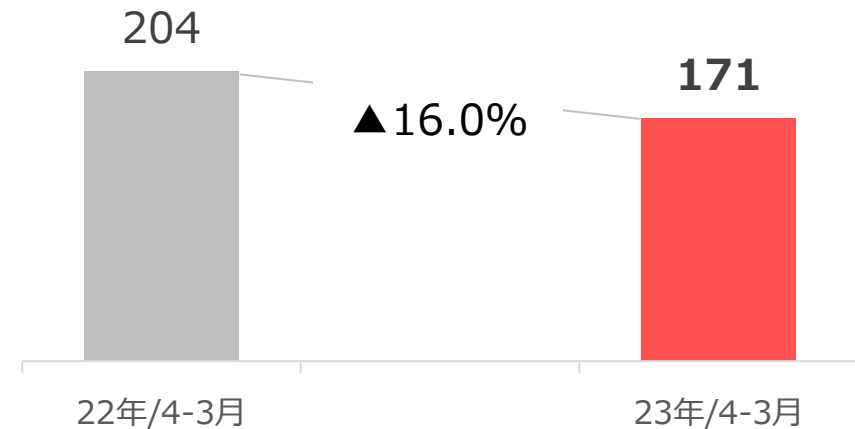
- 前年度比で増収・減益。
- 保険料等収入は、外貨建一時払商品の販売増および再保険収入の増加を主因に増収。
- 基礎利益は、新型コロナウイルス感染症関連の支払減少により保険関係損益が増加した一方、ヘッジコストの増加等による利差損の拡大を主因に減益。

## 保険料等収入

(単位：億円)



## 基礎利益

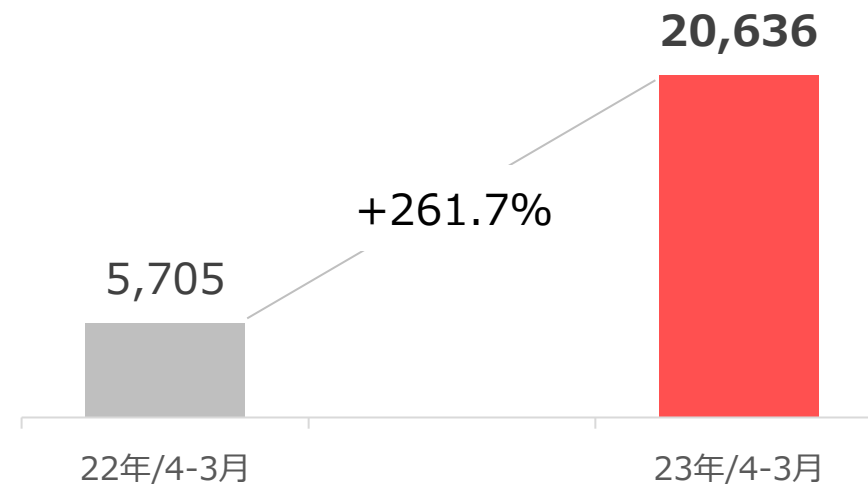


※単体の数値を記載

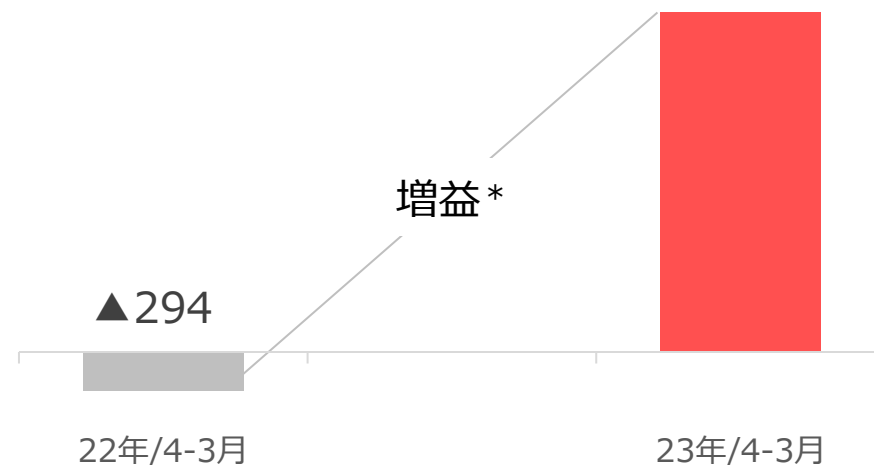
## ニッセイ・ウェルス生命

- 前年度比で増収・増益。
- 保険料等収入は、外貨建・円建一時払商品の販売増および再保険収入の増加を主因に増収。
- 基礎利益は、再保険の影響による標準責任準備金の積立負担の減少等による保険関係損益の増加を主因に増益。

### 保険料等収入 (単位：億円)



### 基礎利益



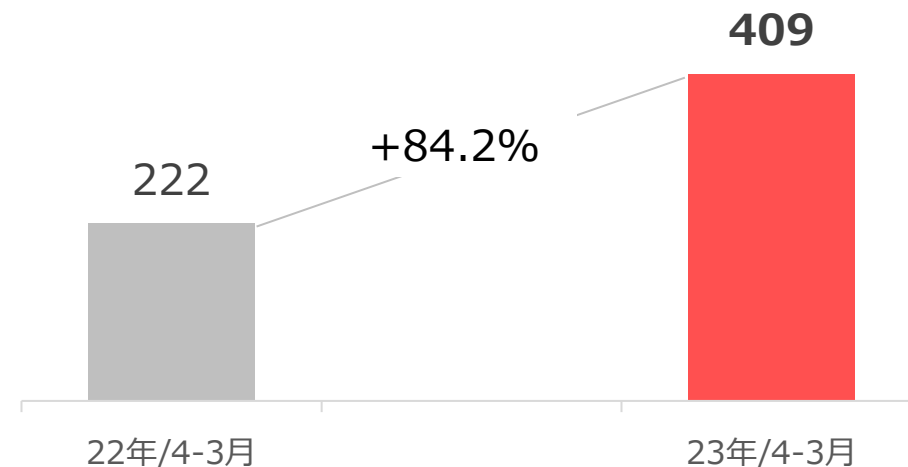
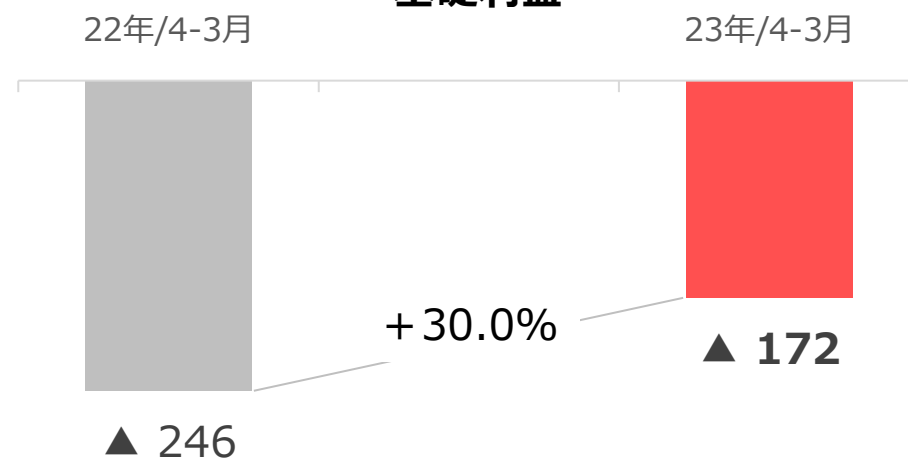
※ 単体の数値を記載

\* 当年度と比較対象年度の数値が異符号のため、増減率算出不可

**はなさく生命**

(単位：億円)

- 前年度比で増収・増益。
- 保険料等収入は、医療保険等の販売増および再保険収入の増加を主因に増収。
- 基礎利益は、事業拡大による事業費等の支出増の一方、再保険の活用に伴う新契約費の負担減少等による保険関係損益の増加を主因に増益。

**保険料等収入****基礎利益**

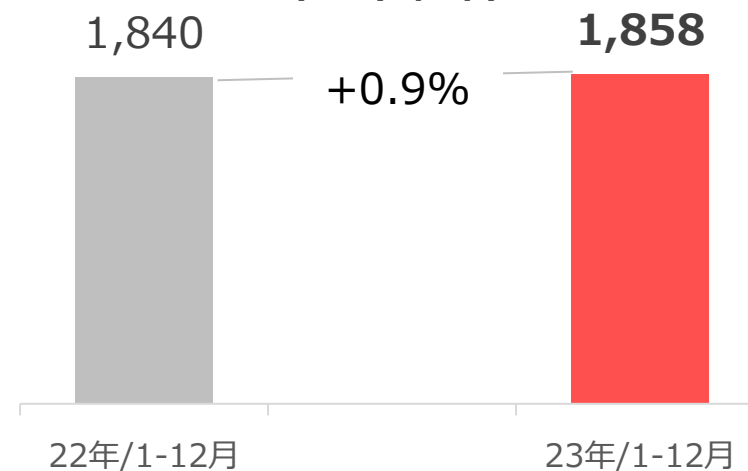
※ 単体の数値を記載

## MLC

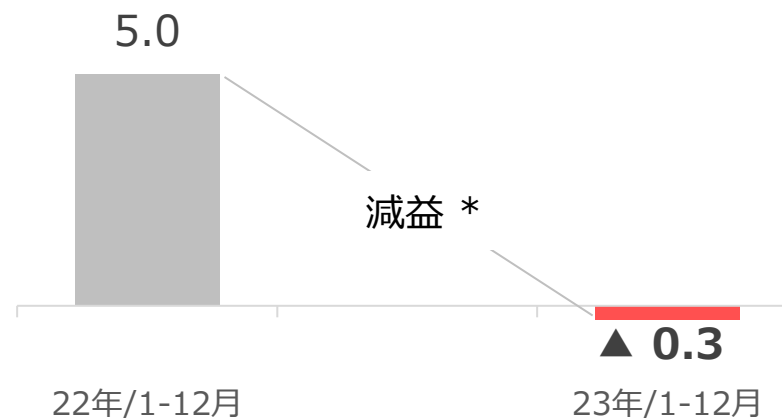
(単位：百万豪ドル)

- 対22年1-12月で増収・減益。
- 収入保険料は、個人保険領域における保険料改定等を主因に増収。
- 基礎利益は、個人保険領域における支払増加等を主因に減益。

## 収入保険料



## 基礎利益



※ 単体の数値を記載

※ 第4四半期決算では1-12月期を連結反映

※ 収入保険料は、日本会計基準に基づいた実収ベース（旧会計基準）で表示

\* 当年度と比較対象年度の数値が異符号のため、増減率算出不可

## 1. 定義・概要

### ESR (Economic Solvency Ratio) :

グループ全体のリスク量に対する資本（リスクバッファ）の十分性を示す比率で、リスク量およびリスクバッファは、保有する資産および負債の経済価値評価\*<sup>1</sup>に基づき計算しています。

### リスクバッファ（ESRの分子）：

リスクに対処するために使用できる資本で、連結貸借対照表上の純資産に、価格変動準備金、危険準備金等の負債性の内部留保、劣後特約付債務、満期保有目的債券、責任準備金対応債券、貸付金、不動産等の資産の含み損益および保険負債の含み損益を合計したもののから、処分予定の剰余金やのれん等の無形資産を控除したものです。

なお、保険負債の含み損益は、保有契約から生じる将来の利益の現在価値を評価したものから、オプションと保証の時間価値\*<sup>2</sup>とリスクマージン\*<sup>3</sup>を控除することにより算出しています。

### リスク量（ESRの分母）：

当社を取り巻く環境の変化により、発生しうる損失を統計的に評価したもので、生命保険リスク、巨大災害リスク、市場リスク、信用リスク、経営管理リスク等を計測しています。各リスクは、将来1年間で99.5%の確率で発生する最大の損失として、バリュー・アット・リスク（VaR）等の方法で計測しています。

### 新契約価値：

期中に締結した保険契約（転換契約を含む）から生じる将来の利益の現在価値を評価したもの\*<sup>4</sup>で、2024年3月末の保険負債の含み損益の算出に用いたものと同じ計算前提を使用しています。

\*1 市場価格に整合的な評価または、市場に整合的な原則・手法・パラメーターを用いる方法により導かれる将来キャッシュフローの現在価値に基づく評価。

\*2 利率や給付額の最低保証など、不利な経済環境下でも保険会社が保証を行うことに伴うコストを評価したもの。

\*3 保険契約に関する将来キャッシュフローの変動に備えるための必要額。

\*4 新契約にかかるオプションと保証の時間価値を控除しています。

## 2. 計算前提

### 経済前提

#### (a) リスク・フリー・レート

参照金利として評価日現在の国債利回りを使用しています。\*<sup>5</sup>

#### (b) 割引率

キャッシュフローの発生年限に対応した区分ごとに設定しています。

#### 第1区分（経過0～30年目）

負債と同通貨の各国債金利のスポット・レート（リスク・フリー・レート）に各社の実績等を基に、運用期待収益率を上乗せ。

#### 第2区分（経過31～60年目）

終局金利\*<sup>6</sup>を仮定し、補外開始年度を30年目として31年目以降のフォワード・レートが30年間で終局金利の水準となるようにスミス・ウィルソン法により補外。

#### 第3区分（経過61年目～）

終局金利をフォワード・レートとして設定。

(参考) 2024年3月末スポット・レート

| 期間  | 円    | 米ドル  | 豪ドル  |
|-----|------|------|------|
| 10年 | 0.8% | 4.2% | 4.0% |
| 20年 | 1.6% | 4.5% | 4.4% |
| 30年 | 1.9% | 4.3% | 4.5% |

### 非経済前提

保険種類別に、過去の支払実績等に基づき、死亡率の改善やインフレ率等を勘案して、保険料、事業費、保険金・給付金、解約返戻金、契約者配当金等の将来キャッシュフローを予測しています。

\*5 一部商品の新契約価値については、契約月の末日または契約月の属する四半期末時点の経済前提を使用しています。

\*6 市場金利が観測できない超長期年限の負債の現在価値を評価する際に、フォワード・レートが一定の水準（終局金利）に収束するという考え方にに基づき、超長期年限の金利を推計しており、円金利の終局金利は2.9%（22年度は3.5%）、米ドル3.5%、豪ドル4.0%としています。